

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 2 部門第 4 区分

【発行日】平成 29 年 3 月 16 日 (2017.3.16)

【公開番号】特開 2014-208464 (P2014-208464A)

【公開日】平成 26 年 11 月 6 日 (2014.11.6)

【年通号数】公開・登録公報 2014-061

【出願番号】特願 2014-61168 (P2014-61168)

【国際特許分類】

B 3 2 B 5/02 (2006.01)

B 3 2 B 27/00 (2006.01)

H 0 1 B 3/30 (2006.01)

B 3 2 B 7/02 (2006.01)

【F I】

B 3 2 B 5/02 A

B 3 2 B 27/00 A

H 0 1 B 3/30 Q

B 3 2 B 7/02 1 0 5

H 0 1 B 3/30 J

【手続補正書】

【提出日】平成 29 年 2 月 1 日 (2017.2.1)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】請求項 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項 1】

示差走査熱量計を用いて測定した結晶化熱量が 10 J / g 以上の熱可塑性樹脂シート層の少なくとも一方の面に、ポリフェニレンサルファイド繊維を含み且つ示差走査熱量計を用いて測定した結晶化熱量が 10 J / g 以上の湿式不織布層が、接着剤を介さずに積層されている積層体。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0007

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0007】

【特許文献 1】特開昭 55 - 35459 号公報

【特許文献 2】特開昭 63 - 237949 号公報

【特許文献 3】特開平 8 - 197690 号公報

【特許文献 4】特開 2012 - 245728 号公報

【特許文献 5】特開平 4 - 228696 号公報

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0009

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0009】

かかる課題を解決すべく鋭意検討の結果、示差走査熱量計を用いて測定した結晶化熱量

が  $10 \text{ J/g}$  以上の熱可塑性樹脂シート層の少なくとも一方の面に、ポリフェニレンサルファイド繊維を含み且つ示差走査熱量計を用いて測定した結晶化熱量が  $10 \text{ J/g}$  以上の湿式不織布層が、接着剤を介さずに積層されている積層体が、前記の課題を解決できることを見出した。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0013

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0013】

以下に、本発明の実施の形態を説明するが、本発明は下記実施形態に限定されるものではないことは言うまでもない。

すなわち、本発明は示差走査熱量計 (DSC) を用いて測定した結晶化熱量が  $10 \text{ J/g}$  以上の熱可塑性樹脂シート層の少なくとも一方の面に、示差走査熱量計を用いて測定した結晶化熱量が  $10 \text{ J/g}$  以上のポリフェニレンサルファイド繊維の湿式不織布層が、接着剤を介さずに積層されている積層体からなる。

【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0062

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0062】

得られた PPS 樹脂組成物を  $180^\circ\text{C}$  で 2 時間、減圧下で乾燥した後、平均粒径  $0.1 \mu\text{m}$  のシリカ微粉末を  $0.5 \text{ 質量}\%$  混合し、 $310^\circ\text{C}$  の温度でガット状に溶融押出して、さらに該ガットをチップ状に切断した。該チップを減圧下で  $180^\circ\text{C}$  の温度で 3 時間乾燥した後、エクストルダのホッパに投入し、 $320^\circ\text{C}$  で溶融し、T 型口金からシート状に押出し、表面温度  $30^\circ\text{C}$  に保った金属ドラム上で冷却固化して厚さ  $50 \mu\text{m}$  の未延伸 PPS フィルムを得た。